

巻頭言

「アサリ垂下養殖技術」特集号の刊行について

我が国のアサリ生産量は1970～1980年代の最盛期の8分の1にあたる2万トン以下にまで減少し、アサリ漁業は逼迫した状況にあります。これまでに資源減少要因究明や対策のための研究が多数行われ、環境変化や食害、寄生生物の問題などが明らかにされてきました。また天然資源の回復に向けて、生息場造成や網掛け保護など様々なアプローチがなされていますが、いまだ生産回復の兆しは見られません。一方、ホタテガイ・マガキでは天然採苗の成功と垂下養殖の導入により、生産量が飛躍的に増大し今日の成功に至っています。アサリについても垂下養殖により安定生産と高品質な生産物を確保することができれば、新たな産業形態を創出し、生産の回復が期待されます。さらに、垂下養殖では餌料供給が大きく改善されるというメリットを生かし良質な卵を産出する親貝を育てることも、天然資源の回復に向けて大きな意味を持っているといえます。しかし、アサリの垂下養殖については、その成長や身入りが良いことなどについて断片的な報告があるのみで、体系的な研究が行われていなかったため、実用化・産業化に向けて必要な情報が整理されていませんでした。

このような状況の中、アサリの高品質・低コストの種苗確保と効率的な養殖手法を可能とする実践的な技術開発を通じて、採算性と効率性を満たす垂下養殖技術を開発し、地域特産物を創出して漁家収入、地域経済に寄与させる事を目的とするために、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「地域特産化をめざした二枚貝垂下養殖システムの開発」が平成24年度～26年度に実施されました。本課題の実施にあたっては、国立研究開発法人水産研究・教育機構のほか、千葉県水産総合研究センター、三重県水産研究所、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター、地方独立行政法人北海道立総合研究機構が参画し、各地域の水産普及指導機関や漁業協同組合が普及支援機関として現場試験の実施と技術の普及をサポートしました。本特集号では、同事業の主要な成果をまとめて、アサリの採苗・垂下養殖に関する最新の知見を提供するとともに、現場への普及に向けた技術的根拠を示すこととしました。本特集号が有効に活用され、アサリの垂下養殖業の経営強化推進に寄与し、普及が促進されることを期待しております。最後に、本事業のアドバイザーとして適切なお指導とお助言を頂いた、元愛知県水産試験場の柳澤豊重氏に対しまして心からお礼を申しあげる次第です。

平成29年3月

水産技術企画・編集委員長 伊藤文成